

# 令和元年度年報



【 令和元年9月 国際ワークキャンプのボランティア活動による植付後の記念撮影  
(七飯町吉野山国有林) 】

森林ふれあい推進センターは、

国有林野を活用し、自然再生や生物多様性の保全に取り組むNPOや森林環境教育に携わる教育関係者等の活動を技術的に支援する組織として、平成16年4月に設置されました。



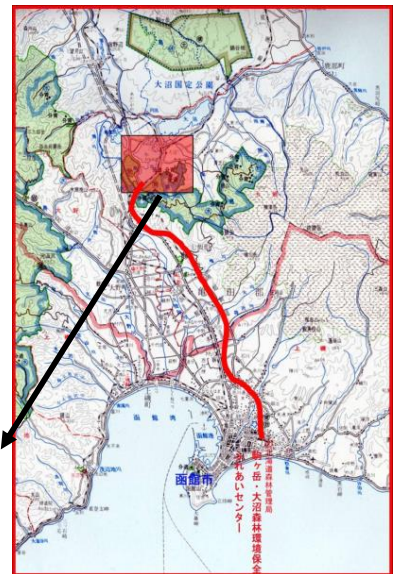
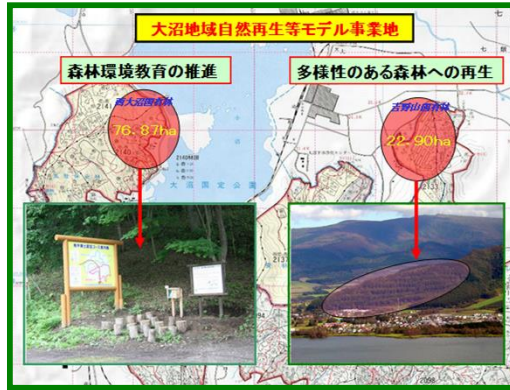
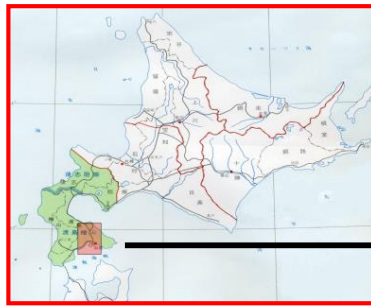
林 野 庁 北 海 道 森 林 管 理 局  
駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

# 大沼地域自然再生等モデル事業の取り組み

モデル事業地は、大沼国立公園エリアに所在し、漁業関係者から水質保全、観光関係者から景観の維持向上、自然保護関係者から鳥獣生息環境の維持向上等が強く求められているなど、環境保全や森林整備に係る関心や期待の高い地域となっています。

このため、モデル事業の推進について、自然保護関係者や民間ボランティア団体等の代表者で構成する検討委員会を開催し、モデル事業地の箇所の選定、森林の取り扱い、事業の推進方法等についてのランドデザインを作成するとともに、地域等が大沼地区の国有林に求めているニーズをモデル事業に反映するよう努めることにしています。

「大沼地域自然再生等モデル事業」は、地域住民等と連携し、**「多様性のある森林への再生」**と当該地及び近接地において**「森林環境教育の推進」**を主とし、取り組むこととしています。



- ＝ 検討委員会 ＝
- 平成16年度  
ランドデザイン作成のために3回実施。
  - 平成17年度～平成26年度「ランドデザイン」に基づく事業内容の検証及び検討のため年に2回実施。
  - 平成28年12月  
役割の一部を「大沼自然豊かな森づくり協議会」に継承して終了。

## ☆ 「大沼自然豊かな森づくり協議会」中止

平成31年・令和元年度「大沼自然豊かな森づくり協議会総会」が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を中止しました。なお、令和元年度の実行内容、令和2年度の計画等について事務局から書面を送付し書面議決としました。委員からは「ドローンを活用し長期的な多様性ある森林の変遷を記録してはどうか」「これまでの自動撮影装置による研究成果の途中報告してほしい」等の書面による意見がありました。



★当協議会は、大沼地域自然再生等モデル事業のランドデザインに基づき、森林の再生活動を行うことを目的として平成17年4月に組織されたものです。

協議会参加団体等名
大沼漁業協同組合
大沼町内会連絡協議会
大沼の水を考える会
北海道国際交流センター
北方森林鳥類調査室クマケラ研究会
函館地方国有林退職者緑の募金推進協議会
21世紀の道南の森林づくり事業実行委員会
個人会員及び関係行政機関

# ☆ 多様性のある森林への再生

大正14年植栽ドイツトウヒ人工林と昭和56～58年植栽トドマツ人工林、及び昭和27年度植栽カラマツ人工林の22.90haの森林を、地域ニーズを踏まえた生物・水質・景観など多様性のある森林へ誘導します。【具体的には、周辺の天然林を参考とした森林へと育成します】



「多様性のある森林への再生」箇所において、様々な取り組みを行っています。令和元年度の主な実施内容は、次のとおりです。

## 「カミネッコンによる植付作業」の実施

令和元年6月22日（土）、大沼自然豊かな森づくり協議会及び一般公募のボランティア総勢15名により、カラマツ人工林の上層木がまばらな箇所へ、カミネッコンによる広葉樹（ミズナラ、イタヤカエデ、ヤチダモ、ナナカマド、アオダモなど）の植付けを行いました。

※カミネッコンとは再生紙や古紙で作ったリサイクルポットです。

当日は、今にも雨粒が落ちてきそうな天気の中で作業が始まり、カミネッコンを組み立てて、苗木の移植を始めた頃、大粒の雨が降りだしたため、作業場所を協議会会長の倉庫へ移動し、予定した約120個を作成し終了しました。後日、職員が植付しました。





## 「国際ワークキャンプ」の受け入れ

概要説明

「国際ワークキャンプ」とは、世界中から集まった若者が一緒に生活しながら、「森林の手入れ」、「動植物の保護」、「有機農業の支援」、「学校の建設」など地域での環境ボランティア活動を行う「国際ボランティアプロジェクト」で、世界約100か国、約3,000箇所で行われています。日本では国際ボランティアNGOのNICE（ナイス）が「国際ワークキャンプ」の企画、運営、参加者の募集等の事務を行います。日本各地に協力団体があり、北海道では函館市にある「北海道国際交流センター」が受皿団体になっています。

当ふれあいセンターでは、吉野山国有林（七飯町字大沼）で実施している「大沼自然再生等モデル事業」において、自然再生等への取り組みの一環として、各種森林ボランティア活動の機会を提供しています。今年、イタリア、香港、メキシコ、ロシア、ドイツ、ベトナム、ポーランド、日本など8カ国、13名の20代を中心とした若者が参加し、7月31日から9月4日までの中で、8日間、地拵、植付、下刈、作業道整備などの作業に協力していただきました。



作業終了後、集合写真



地拵・植付作業



ポット苗づくり



作業道整備



## 吉野山森林植生観察会の実施

自然再生の取り組みが始まってから10年が経過したことから、主に下層植生の変化（変遷）を観察するため、「植生観察」を実施しました。（春季5月18日、秋季10月5日）大沼自然豊かな森づくり協議会のメンバーと一般公募によるボランティア延べ52名の参加がありました。

春季  
5月18日



秋季  
10月5日



# ☆ 森林環境教育（樹木博士認定会）の推進

西大沼国有林の樹木博士認定常設コース（平成16年10月オープン）を拠点とし、森林に対する関心と理解の醸成を図る活動を実施しています。

具体的には、森林環境教育の指導者の養成等のための樹木博士認定会の開催や研修会等を実施し、森林環境教育を推進します。また、多様性のある森林への再生活動（吉野山国有林）においても森林環境教育を実施することとしています。



樹木博士認定常設コース



常設コース看板



認定会の様子

## 樹木博士認定会とは

樹木の名前や識別方法を学習した後、樹木名を答える試験を行うもので、それをきっかけとし、森林に親しんでもらうことを目的とした森林環境教育（アウトドア活動プログラム）のひとつです。

## 樹木博士認定コース

子ども樹木博士認定活動推進協議会（平成12年設立）のプログラムを採用し、平成16年には、この活動を地域に広めることと森林環境教育に関する指導者の養成を図るための活動の拠点として、誰でもいつでも利用できる「常設コース」を大沼国定公園内の西大沼国有林（七飯町）に開設し、対象者を子ども達だけではなく一般にも広げ、毎年6月から9月の第一日曜日に定期開催しています。



樹木博士認定コース案内板

## 進め方

1時間程度の樹木の説明を受けた後、樹種名（20～30種）を答える試験を行い、成績に応じて段級（最高位は10段）を決定し、認定書を授与します。



樹名板

認定書

## コース概要

- ◆ コースの距離 事前学習コース [ 450 m ]  
テストコース [ 390 m ]  
周 遊コース [ 2,050 m ]
- ◆ 試験 樹 種 40種（ブナ・ミズナラ・スギなど）



左写真はセンターで作成した「樹木ガイドブック／全70ページ」（平成23年3月発行）

このガイドブックにより、樹木の説明を行います。



令和元年度の樹木博士認定会の取組については、公募により6月・7月・8月・9月の4回の定期開催を実施しました。

また、より多くの挑戦者の参加を期待して、函館市教育委員会で取り組んでいる生涯学習講座「HAKODATEまなびっと広場」に参画し、選択科目の一つとなっています。

定期開催の結果の内容等については、次のとおりです。

第1回開催（西大沼）



第2回開催（西大沼）



第3回開催（西大沼）



第4回開催（西大沼）



本年度の定期開催の参加者は延べ29名で、今年も参加者数が伸び悩んでいることから教育機関等への働きかけをすると共に他のイベントやホームページでPR活動を行ってまいります。

● 定期開催結果

回数	認定会日時等	参加者	内 訳
第1回	6月 2日（日） 10：00～12：30（西大沼）	12人	子供 3、大人 9
第2回	7月 7日（日） 10：00～12：30（西大沼）	7人	子供 0、大人 7
第3回	8月 4日（日） 10：00～12：30（西大沼）	5人	子供 0、大人 7
第4回	9月 1日（日） 10：00～12：30（西大沼）	5人	子供 0、大人 5

● その他開催

江差北小グリーンスクール・活動体験	57人	子供28、大人29
-------------------	-----	-----------

● 樹木博士認定状況

令和元年度末 累計	2,661人（平成12年度の旧函館分局から行ってきた合計です）
-----------	---------------------------------

# ☆ 自動撮影装置による野生動物調査

当センターでは、大沼周辺(七飯町)の森林における野生動物(中大型哺乳類等)の生息調査を実施しています。

- 調査目的・・・野生動物の生息状況を長期的に記録し、その変化と環境の変化とのかかわりを研究する。
- 調査方法・・・自動撮影装置(カメラ)による撮影  
(赤外線センサーに反応する動物を撮影)  
(平成26年度よりデジタルカメラを導入)
- 調査時期・・・年2回(7月、9月)、3週間連続で実施

自動撮影カメラの設置



## PHOTO



タヌキ



コウモリ



ニホンテン



エゾシカ



ヒグマ



キタキツネ

# ☆ 森林づくり塾2019 開講

目的

森林の役割や森林づくりの基礎を学び、実際の森林作業を体験することにより、森林作業の技術の習得、また、森林の中での楽しみ方を体験し、理解を深め、森林ボランティア作業への参加意識の醸成と森林環境教育のリーダー的存在となりうる人材の育成を目的としています。

「森林（もり）づくり塾」の取り組みは今年で13年目となります。公募を行った結果、函館市や近郊の市町村などから15名の参加があり、今年も渡島総合振興局東部森林室主催の「森への誘い講座」と連携して実施しました。「森林づくり塾」は森林作業を中心とした6回の講座で、そのうちの4講座を「森への誘い講座」と共同開催し、そのほか「森への誘い講座」の2講座にも参加可能として、全8回の講座に参加しています。

## 第1回講座

第1回は、5月19日（日）、駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターで開講式とポット苗づくり、マイ箸づくりを体験しました。開講式、安全対策等について学んだあと、ミズナラ・アオダモなど大沼周辺から採取した広葉樹の小さな苗をビニールポットに植えるポット苗づくりで、これは第6回の植付体験に使用します。最後にマイ箸づくりを体験し終了しました。



## 第2回講座

第2回は、6月23日（日）、「森への誘い講座」と共同開催で、26名が参加し七飯町カリマ国有林で下刈作業を実施しました。当日は早朝まで雨が降るぐずついた天気も回復し、鎌の安全な使い方を学習したあと、トドマツ造林地で下刈を体験し、さわやかな汗を流しました。昼食後に鎌研ぎを実施し、午後の作業で切れ味を試していました。



## 第3回講座

第3回は、7月20日（土）、塾生11名が参加し、森町にある株式会社ハルキ製材所で原木（丸太）から製材工程・集成材・プレカット等の加工工程を見学しました。昼食後七飯町西大沼の樹木博士認定コースで、葉っぱの形の違い等による、樹木の識別方法を学びました。



#### 第4回講座

第4回は、8月25日（日）、七飯町軍川国有林で「森への誘い講座」の受講生も含め20名が参加してトドマツ人工林の保育間伐作業（除伐2類）を実施しました。

当日は晴天に恵まれ、安全作業について説明を受けたあと、2グループに分かれて作業しました。ほとんどの人が伐倒するのは初めてでしたが、交代しながらも終了する頃には馴れた手付きで鋸を使っていました。



#### 第5回講座

第5回は、10月6日（日）、七飯町吉野山国有林で「森への誘い講座」の受講生も含め25名が参加して、カミネッコンによる植付作業を実施しました。

最初はカミネッコンの組み立てに手間取っていましたが、徐々に慣れて、終了予定の時間までに、ミズナラ、アオダモなど約200本の広葉樹を植付けることができました。



#### 第6回講座

第6回は、10月23日（水）、今年度最後の「森林づくり塾」で「森への誘い講座」と連携し「森からの贈り物」と題した、キノコの生態学習と散策に塾生と講座生の総勢35名が参加しました。道南四季の杜公園の里の舎（いえ）で、函館キノコの会の石垣さんが講師となり、キノコの生態、食用キノコの栄養、調理法、健康食としての働きまで、多様なキノコの講義を受け、午後からは、公園内の森林でキノコを探しながら散策しました。



#### 「森への誘い講座」への参加

渡島総合振興局東部森林室主催の「森への誘い講座」に「森林づくり塾」の塾生が、参加しました。



9月4日（水）  
横津岳～  
烏帽子岳登山

9月18日（水）  
函館市縄文文化交流センター・大船  
遺跡 見学



## ☆ 森林環境教育

### 🌲 はこだて花と緑のフェスティバル2019に参加

6月8日（土）9日（日）、はこだてグリーンプラザ（函館市松風町）で「はこだて花と緑のフェスティバル2019」が開催されました。

当センターでは、大沼自然豊かな森づくり協議会による活動、森林環境教育の取組、花や動物の写真を「パネル展示」で紹介したほか、同じ樹種の輪切り板を2枚ずつ用意して、組み合わせる神経衰弱と「木工体験」としてマイ箸づくり体験を行いました。



### 🌲 若手職員等(森林管理署・北海道)を対象とした人材育成

7月29日（月）、西大沼国有林樹木博士認定常設コースで渡島・檜山森林管理署と渡島総合・檜山振興局管内の若手職員を対象とした職員研修に26名が参加し、2班に分かれて樹木博士認定会を体験しました。学習コースでは熱心に説明を聞きながら、樹木の葉などの特徴をメモにとり、識別試験では若手職員で実務経験が短いため全員が全問正解とはなりませんでした。好成績で終了しました。



### 🌲 檜山森林管理署主催「グリーンスクール」に協力

9月12日（木）、檜山署主催の「江差北小学校グリーンスクール」が砂坂海岸林で開催され、当センターは5・6年生を対象に子ども樹木博士認定会を実施しました。

最初に樹木の葉の特徴について説明した後、12種類の樹木の見分け方について学習。特徴を覚えるために、どんぐりのなる「コナラ、ミズナラ、カシワ」の実の大きさの違い、葉柄の長さの違いなどをメモ書きしたり、ガイドブックを見ながら事前学習し、識別試験の結果は満点や高得点の子もたくさんいました。後日、子ども樹木博士認定書を授与しました。

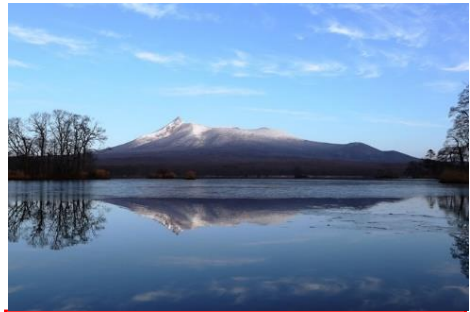




# 主な活動実施区域



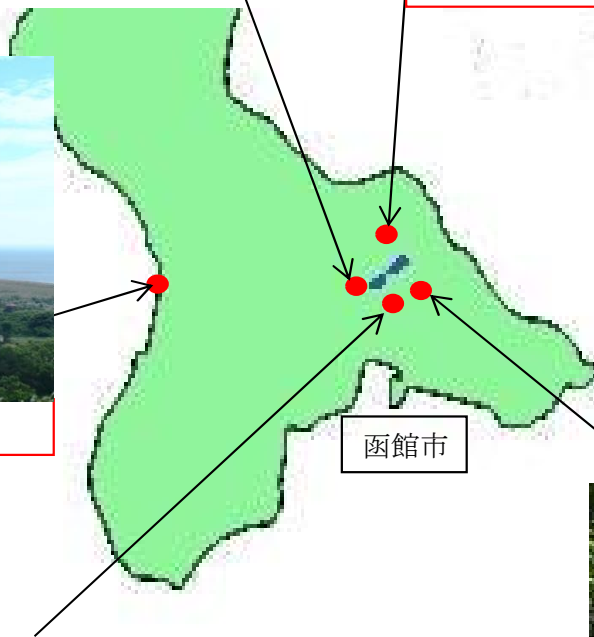
西大沼（にしおおぬま）国有林



駒ヶ岳（こまがたけ）国有林



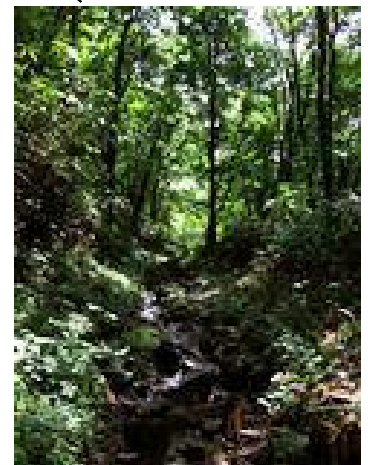
砂坂（すなさか）海岸林



函館市



吉野山（よしのやま）国有林



カリマ国有林

国有林は「国民の森林」です。皆さま方からのご意見ご要望等をお待ちしています。

林野庁 北海道森林管理局  
駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

〒042-8550 北海道函館市駒場町2-13  
TEL 0138-51-0381  
FAX 0138-51-8908  
E-mail [h\\_koma\\_f@maff.go.jp](mailto:h_koma_f@maff.go.jp)